主の祈り　(93-5A)

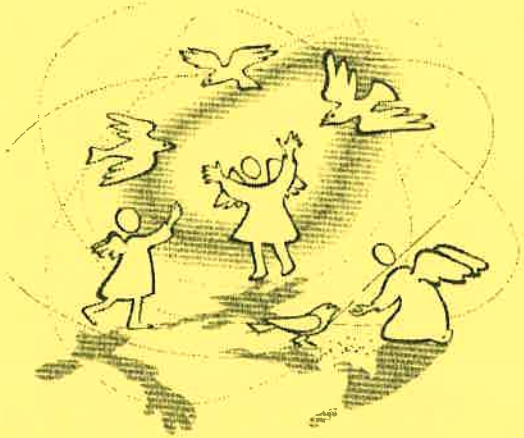
天にます　われらの父よ
ねがわくは、み名をあがめさせたまえ
み国をきたらせたまえ
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ
われらの日用の糧（かて）を、今日もあたえたまえ
われらに罪をおかすものを、われらがゆるすごとく
われらの罪をもゆるしたまえ
われらをこころみにあわせず、悪よりすくいいだしたまえ
国と　ちからと　さかえとは、かぎりなく、
なんじのものなればなり　　アーメン

石巻栄光教会宣教基本方針

石巻栄光教会は，主なる神と出会うイエス・キリストの体です。神様が愛している一人一人のかけがえのなさを思い出し，この世界を神様が大切にしていることを思い出す場所です。石巻栄光教会は，希望を生み出します。

私たちは、この社会の現実の中で生きています。教会の中だけでの満足にとどまらず、社会に生きる人々の痛みや苦しみ、あるいは楽しみを共にしていくこと、そして、悩みや不安を分け合って喜びに変えていく教会になることを願います。

また、一人一人の生き方を尊重するとともに、神様から一人一人に与えられている賜物を活かして、神さまと人を愛し、感謝しながら地域に仕えていく教会を目指します。



日本キリスト教団 石巻栄光教会

〒986-0854　石巻市大街道北２丁目１２－３
電話／FAX：0225-22-4090
ホームページ：http://tohoku.uccj.jp/i-eikou
メール：i-eikou@tohoku.uccj.jp
振替口座：02280-8-2810
教会創立：1887年9月25日

集会案内

聖日礼拝	毎週日曜日	午前10：30
早朝礼拝	毎週日曜日	午前 7：30
交わりの会	毎週日曜日	礼拝後
み言葉と祈りの会	毎週水曜日	午後 7：30

2024年度標語　『これは、人の意志や努力ではなく、
神の憐れみによるものです』

◎ 聖日礼拝を共に守りましょう。
◎ 日ごと聖書に聞き、祈りましょう。
◎ 家族・地域に福音を届けましょう。
◎ 平和を創り出すために働きましょう。

No.2463　　四旬節第一主日　礼拝式順序　　2025年3月9日　午前10時30分

受付 司会 献金 奏楽	礼拝当番は 礼拝堂に集まった人の中で 可能な方に担当いただきます。

前奏		
招きの言葉	[1] 詩編第100編1～2節	司会者
讃美歌	32	一同
祈り		司会者
聖書	ヘブライ人への手紙4章14～16節 （新約聖書 405 ページ）	
讃美歌	433（1-3節）	一同
お話	「堂々と、神のみ前に近づこう」 日本基督教団仙台宮城野教会　齋藤朗子 牧師	
讃美歌	433（4-5節）	一同
献金		一同
報告		司会者
讃美歌	88	一同
祝福の祈り		
後奏		

＊当教会では 着席のまま礼拝を守っています。
＊旧約聖書は前半（P.1502まで）、新約聖書はその後ろです。
＊献金の額はいくらでも結構です。持ち合わせがないときは次の機会に。

∞○∞○∞○∞○∞ お知らせ ∞○∞○∞○∞○∞

本日は、川上牧師が日本基督教団南山教会の礼拝説教と講演を オンラインで担当（園舎二階で奉仕しています）となり、 齋藤朗子先生に礼拝を担当頂きました。心から、感謝いたします。

∞∞∞∞∞ 今週の集会 ∞∞∞∞∞

☆「3.11追悼礼拝」　3月11日（火）14:30～　オンライン併用
☆「御言葉と祈りの時」　3月12日（水）19:30～　オンライン併用
☆「荊冠の神学」読書会　3月13日（木）10:00～　オンライン併用

∞∞∞ 次週の予告（3/16）∞∞∞

☆ 四旬節第二主日礼拝（お話：川上直哉 牧師）

[聖 書]	ローマの信徒への手紙5章8節
[お 話]	「神は愛を」
[讃美歌]	34　306　89　　[招きの言葉] 30
受付	礼拝当番は礼拝堂に集まった人の中で 可能な方に担当いただきます。
奏楽	

公告　2025年度教会総会を、4月13日（日）礼拝後に、日本基督教団石巻栄光教会礼拝堂で行います。

∞○∞○∞○∞○∞ お知らせ ∞○∞○∞○∞○∞

✤今後の予定は以下の通りです

- **3月5日（水）～4月19日　四旬節（レント）**
- **3月20日（木）日本基督教団東北教区伝道研修会**
  （参加申し込みは3月11日締め切りです）
- **4月12日（土）日本基督教団東北教区宮城北地区総会**
- **4月20日（日）　イースター**

《 先週の集会統計 》

聖日礼拝	8人	み言葉と祈りの会	6人
早朝礼拝	－	聖餐式	－

月定献金		特別献金
川上恵（2月） 石井龍子（3月）		柴宿教会・石井龍子（以上、感謝）
席上献金	¥15,500	

週報別冊

2025年３月９日号

１．教会宛に、以下の通信が届いています。

【日本基督教団・東北教区関係】

- **「総会関係書類」（日本基督教団東北教区）**：5月27日（火）10時半～28日（水）16時に仙台青葉荘教会で行われる東北教区総会に向けた書類を頂きました。

- **「学報」「後援会だより」（農村伝道神学校）**：1968年の日本基督教団機構改正の後、「農」を巡る混乱と困難が生じたこと、その中で農業の現場に神学校から出た証、等が掲載されています。

- **「台湾研修旅行への献金報告と御礼」（会津北嶺高等学校・日本基督教団猪苗代教会 新田恭平牧師）**：会津地区の高校生たちの台湾研修・交流を終えての報告を頂きました。

- **「東日本大震災・東電福島第１原発事故を覚えて オンライン祈祷会ご案内」（日本基督教団東京教区北支区）**：3月7日(金)19時からオンラインで開催された祈祷会の案内を頂きました。

【その他教会・団体関係】

- **「ＳＩＮＡＰＩＳ」（カトリック大阪・高松大司教区）**：国内外で性加害者として告発される聖職者が続発していることを受けて、謝罪と回復の祈りの要請を記した「2025年『性虐待被害者のための祈りと償いの日』にあたって」等をお送りいただきました。

- **「共助」（基督共助会）**：ラインホルド・シュナイダー、ブレーブ・パスカル、沢崎堅造、青野太潮らの理解する「十字架にかかったままの復活」を紹介する講演「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」（日本基督教団御所教会員 下村喜八さん）等が掲載されています。

- **「クリスチャン新聞」**：川上牧師が日本基督教団東京教区東支区社会委員会のセミナーで講演した内容が報告されています。

- **「ＴＡＭＢＯＵＲＩＮＥ」（ミクタムレコード）**：シンガーソングライターの小坂忠牧師が立ち上げた団体からの通信です。

２．牧師動静

３月３日（月）

休暇を頂きました。

３月４日（火）

午前中、エマオで日本基督教団東北教区教誨師会の会議に出席し、午後に一件の訪問をしました。

３月５日（水）

日中、教会で執務し、夜、祈祷会を主宰しました。

３月６日（木）

休暇を頂きました。

３月７日（金）

午前中、宮城刑務所で教誨活動を行い、午後、石巻山城町教会で世界祈祷日の集会に参加しました。

３月８日（土）

日中、「愛と希望のコンサート」のお手伝いをしました。

- 金曜日に石巻山城町教会で行われた世界祈祷日の集会に、教会から６名が参加しました。地区の交わりが守られ祝されていることを感謝しています。

- ３月20日に伝道研修会が開催され、刑務所教誨・保護司活動を学ぶ会となり、川上牧師も登壇します。参加申し込み締め切りは３月11日です。川上牧師は、当日は朝８時半頃に教会を出発しますが、ご一緒いただける方は、どうぞ、お声がけください。

- ３月１１日（火）午後２時半から、石巻栄光教会礼拝堂にて、ワイズメンズクラブ主催で「3.11 追悼礼拝」が行われます。申し込みなどは不要です。どうぞ、ご参加ください。オンラインも準備しています。ご希望の方は、お知らせください。

３月１０日（月）

朝から福島市へ行き、新しい YMCA･ワイズメンズクラブ設立の会議に出席し、午後に石巻に戻り、2026 年 6 月に行われる全国大会のための死長方形訪問などをしています。

３月１１日（火）

午前中「3.11 追悼礼拝」の準備をし、午後にその司式を担当し、夜にワイズメンズクラブの例会に出席します。

３月１２日（水）

日中、「3.11」でお越しの皆様の接遇をし、夜、祈祷会を主宰します。

３月１３日（木）

午前中、一件の訪問をして読書会と聖餐式を行い、午後、仙台ＹＭＣＡホテル専門学校の卒業式に役員として出席します。

３月１４日（金）

休暇を頂きます。

３月８日（土）

午前中、エマオで「侍」読書会を主宰し、午後、仙台白百合女子大学カトリック研究所の研究会に出席します。

※牧師と面会をご希望される方は、どうぞ、ご遠慮なく教会のメール宛、ご連絡ください。日程を調整して、ぜひお目にかかりたく存じます。

『私の救い、私たちの希望』著者・川上氏が講演

被災地で宣教観が変わった

川上氏

支援活動をする中で被災者と出会い、教えられたこと、気づいたこと、気づかされたこと…。日本聖公会東京教区東京北区社会部委員会は、「私の救い、私たちの希望 ポッシェ『宣教のパラダイム転換』を被災の地で読む」（YOBEL, Inc）の著者、川上喜哉氏（日本聖公会・石巻栄光教会牧師、NPO法人被災支援ネットワーク「東北くるーる」事務局長）を講師に招き、2024年度東北区社会部社会セミナーを2月24日、千代田区の富士見町教会で開催した。テーマは「私の救い、私たちの希望 一人一人を大切にすることからはじまる宣教編」。

川上氏は、東日本大震災以降、東北へルプ代表として被災地支援に従事。英国の神学者P・T・フォーサイスの聖餐論に導かれた言葉「十字架を通って光へ（Per Crucem ad Lucem）」を紹介し、「フォーサイスの贖罪論を思いながら支援活動してきたフォーサイスがいなかったら続かなかった」と明かした。

その上で、日本聖公会「日本伝道の推進を祈る日」のポスターに触れながら、ミッシオ・デイ（Missio Dei）という宣教観について触れた。「ミッシオ・デイは『神が働く』と言うこと。神がまず働き、教会はその協力伝道をする。神が働く畑を共に耕す。これは私が学んできたことでもある」

一方、「ミッシオ・デイは植民地主義・帝国主義の反省から、私たちの間に定着した」とも語る。「植民者が、自分たちの住みやすいように移住先を作り変える。そのためにキリスト教を植え付け、教会を立てる。このような宣教観が今でもある。その反省が20世紀に起こった。ミッシオとはミサ（聖餐）という言葉の語源だ。ミサは派遣とつながりがある。良い思いを届けるために、私たちは派遣される。それには派遣元と派遣先がある。宣教とは、派遣元と派遣先の間にあることだ」

その宣教のためには、①抽象的には、三位一体論の霊性を回復すること。諸宗教協働を成立させる贖罪論が必要、②具体的には、教会にしかできないことに専念し、そのためには生活基盤がないと宣教ができないので「生業と宣教の整理」が必要であると述べた。

「キリスト教は一神教と言われるが、イスラム教徒から『あなたがたはそうではない』と言われる。三位一体の霊性を回復することは、諸宗教協働の実りにつながっていく。私は教誨（きょうかい）師として仏教、神道、天理教の方々とも一緒にやっているが、やればやるほど奥が深い。キリスト教だからこそ、諸宗教にもどんなに開かれているかという神学が必要だ」

「教会にしかできないことのために、諸宗教とも何でも協働する。ただし、派遣先を良く知っていないと、働きができない。問題も次々に起こしてしまう。切り分ける、整理する、つながりが大事だ」と語った。

質疑応答では、川上氏が講演の中で語った「教会がキリスト教を宣言することをやめること」とはどういうことか、質問が出た。それに対して、「『私の救い、私たちの希望』を証言する言葉だ。私の救いとして贖罪信仰があり、そこから希望が広がっている。それが、ムスリムのような贖罪信仰を持っていない人にも共有できる」

「被災地での体験で宣教のあり方が変わったことは」との質問には、「私の友人の中嶋聖基氏（キリスト聖務所山台宣教センター宣教師）が『言証』という言葉を使っている。ミッションは宣教と訳されたが、カリュグマ（教える）とは違う。なぜ『言証』にしてくれなかったか。意外だが、3・11を経て、私はキリスト教を生きる価値を知った。いつもどこでも神様はあなたを愛している、あなたは神の子だと言われている、そう生きなければならない、そうしなければ、そもそもやっていられない現場だ。だが、それがあればそこにいる意味がある」と答えた。【日田記】